

「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

平成30年度 大津町小中学校共通実践事項

(1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示 (3)家庭学習の習慣

6月26日(水)

徳淵

6月21日(金) 2年3組 研究授業 単元名：かさ 授業者：野口先生

先日の野口先生の授業を私なりの視点で分析してみました。

①資質・能力の視点での分析

新学習指導要領解説・算数編ではP. 18～19に資質・能力が領域別にまとめてあります。

第2学年 C測定 身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力

本時では、「身のまわりにあるもの」として、ボウルを使用しました。「量の単位を用いて的確に表現する力」の点は、本時では子どもたちはdLまたは使わずに、Lのみで測定し、dLまでを表現しました。授業者としては、dLますを使ってほしいという願いもあったと思いますが、Lますの1目盛りが1dLであることを生かした素晴らしい子どもたちの思考だったと思います。

②目指す児童の姿からの分析

低学年の「理解が深まった姿」は、「何が分かったかを自分の言葉で伝える姿」でした。本時の授業で、「子どもたちに何が分かった？」と問うた時にどんな返事が返ってきたでしょうか。

まず、手段・方法としては、「Lますだけでも、dLまでを測ることができる」という点です。

2つ目が、「かさを表す時は、『○Lよりちょっと多い』という大まかな表し方と、『○L□dL』というくわしい表し方がある」という点だったと思います。しかし、この点はクラス全体の思考が深まらずに終わった印象です。板書の中央左と右を比べた時に「どちらも正解。」という見方・考え方を働かせた児童がいました。その発言から、「どちらも正解って、なぜだと思う？」と、全体に投げかければ、2つの見方・考え方について、クラス全体での共有につながったのではないのでしょうか。

研究授業で水を使わせるという大胆な内容を扱われました(^v^)水をこぼしながら、Lますでかさをどうにか測り、言い表そうとしていた子どもたちの姿はまさに、問題解決に向けた主体的な姿だったと思います。野口先生の提案授業から、私たちも今の自分の授業を分析し、授業改善につなげましょう！野口先生、貴重な提案授業、ありがとうございました！！